

学会だより

◇ 会長挨拶

日頃より日本育種学会の活動にご協力やご支援をいただき、学会員の皆様に対して厚く御礼を申し上げます。

4月より、倉田前会長の後を受け、育種学会長を務めております奥野員敏です。24～25年度の2年間、今回改選された各地区選出の幹事や常任幹事および各種委員会委員の皆様と力を合わせて、日本育種学会の発展に少しでも貢献できることを目標に、微力を尽くしたいと思っています。

とくに、学会の顔とも言うべき学会誌の国際的な評価を高めるための工夫をしたいと考えています。近年、Breeding Science への外国からの投稿が大きく増えています。非会員の投稿が可能になったこと、海外におけるBSの認知度が高まったことなど、いくつかの理由が考えられます。一方、論文の受理率は会員と非会員（外国からの投稿）の間で大きく異なる状況が続いています。もちろん年次間で変動しますが、過去3年間における非会員から投稿された論文の約70%が最終的に受理されませんでした。海外からの投稿が増えたものの、そのレベルは低いものが多いということです。海外からの安易な投稿を減らし、質の高い論文の投稿を促すためにも、BSのレベルを上げることが一つの課題であろうと思います。その達成には、会員の皆様から質の高い論文を投稿していただくことに加えて、1.0前後のIFをできれば1.5程度で定着させたいと考えています。そのためにも、BSに限らず論文執筆される時、BSに掲載された論文を引用するように心がけていただきたい。今後、編集委員会と連動して、BSの国際的な評価が高まるような活動を進めていきたいと考えています。学会員の皆様一人一人の日頃からの積み重ねを切に期待しています。

2012年5月

日本育種学会長
奥野員敏

◇ 会員の栄誉

新城長有会員が「みどりの学術賞」受賞

本会会員新城長有琉球大学名誉教授は平成24年4月27日、「ハイブリッド米の開発に関する功績」により内閣総理大臣から第6回「みどりの学術賞」を授与されました。

「みどりの学術賞」は「みどり」の大切さについて国民の理解を深めることを目的として平成19年に創設され、毎年原則として1件（実績としては2件ずつ）表彰され

てきました。従来は生態・環境・生理分野から受賞しており、遺伝・育種分野は今回が初めてです。

授賞式には両陛下はじめ、三権の長、関係大臣、宮内庁関係者などが臨席され、高齢の新城氏に代わってご長男が代理受賞されました。受賞に先立って、選考委員である武田和義会員が参内し、受賞業績について両陛下にご説明いたしました。

ハイブリッド米は我が国では普及しておりませんが、中国では2009年に水田全体の58%（南部のインディカ栽培地帯では大部分）で栽培され、その増収効果は7,000万人分の食料に相当すると言われております。新城氏のハイブリッド米はインディカから見いだした細胞質雄性不稔を使った三系法によるもので、野生稻の細胞質雄性不稔については東北大学の勝尾・水鳥（1953、育種学雑誌8:1-5）が報告しています。いずれも本会会員による貴重な研究の成果です。

◇ 論文掲載料の変更

Breeding Science の論文掲載料が以下のように変更されますのでお知らせします。

会員：10,000円→15,000円

非会員：20,000円→25,000円

掲載料変更の適用は、7月1日以降の受付論文とさせていただきます。

なお、カラー料金は、昨年の61-3号掲載論文から、Figure 1枚あたり75,000円が30,000円に変更されています。皆さまのご理解をお願い申し上げます。

◇ 常任幹事会議事録

開催日時：平成24年3月13日（14:00～18:00）

開催場所：東京大学農学部

出席者：倉田のり、奥野員敏、草場信、野々村賢一、横井修司、鳥山欽哉、伊藤純一、那須田周平、金澤章、奥本裕、田口文緒、友岡憲彦、北野英己、久保山勉、有村慎一、乙部千雅子、千田峰生、穴井豊昭

各常任幹事からの経過報告後、シンポジウム委員会から次期大会からシンポジウムの形式が変更になることに関わった審議事項が提案、了承された。平成23年度決算案、平成24年度予算案、次期以降の大会開催案、幹事会議題、総会議題が提案、了承された。また、東京大学で記者発表が行われたことが報告された。

◇ 幹事会議事録

開催日時：平成24年3月25日（15:00～17:45）

開催場所：宇都宮大学農学部大会議場

出席者：阿部純、貴島祐治、金澤章、高畑義人、西尾剛、千田峰生、鳥山欽哉、久保山勉、大澤良、田部井豊、阿

部知子, 金子幸雄, 伊藤純一, 荻原保成, 宍戸理恵子, 有村慎一, 佐藤豊, 北野英己, 奥本裕, 築山拓司, 齊藤大樹, 清水顕史, 辻本壽, 富田因則, 穴井豊昭, 坂井真, 和田卓也, 倉田のり, 奥野員敏, 草場信, 野々村賢一, 横井修司, 那須田周平, 乙部千雅子, 田口文緒, 友岡憲彦, 熊丸敏博, 福岡修一, 加藤清明, 原田竹雄, 中村俊樹, 笹沼恒男, 矢野昌裕, 山本俊哉, 勝田真澄, 石本政男, 江面浩, 房相佑, 木庭卓人, 佐々英徳, 高溝正, 堤伸浩, 岩田洋佳, 平野久, 村井耕二, 川上直人, 岩崎行玄, 犬飼義明, 寺石政義, 宅見薫雄, 加藤鎌司, 佐藤和広, 一谷勝之, 松田靖, 村井耕二, 片山健二, 近藤勝彦 (計 67 名) 委任状: 三浦秀穂, 阿部利徳, 岩永勝, 半田裕一, 多田雄一, 芦苺基行, 小島昭夫, 武田真, 安井秀, 吉村淳, 三上哲夫, 松岡信, 大坪憲弘, 山岸博 (計 14 名) 欠席: 安東郁男, 渡邊和男, 中村郁郎 (計 3 名) 総計 84 名

1. 報告

各常任幹事(総務, 科研費・農学会, ホームページ, 地域, 編集英文誌, 編集和文誌, 集会)からの報告がなされた。シンポジウム委員会からは, 日本育種学会シンポジウムの運営方針の変更について以下の提案がなされ, 秋季大会でのシンポジウムは1課題をシンポジウム委員会が選定し, その他を広く公募すること, 開催校の負担軽減, 学会員参加の利便性の観点からグループ研究集会を廃止し, ワークショップとして開催すること了承された。男女共同参画推進委員会からは, 男女共同参画学協会連絡会関連では, 2011年10月31日に筑波大学において連絡会シンポジウムが開催されたこと, 育種学会での活動として託児所開設のマニュアル化, 2010~2011年度の育種学会での女性の登用状況, 秋季大会でのワークショップの企画について報告がなされた。記者発表報告では, 3月21日に東京大学弥生講堂アネックス講義室において, 2課題(講演番号103, P001)について記者発表が行われ, 講演番号103の課題が日本農業新聞(3/22), 日経バイオテク(3/21), 講演番号P001の課題が日本農業新聞(3/30), 日経バイオテク(3/22), 科学新聞(3/30)に掲載されたことが報告された。

2. 議事

1) 平成24-25年度の役員(指名幹事, 常任幹事)および各種委員について

奥野副会長から次期の役員(指名幹事・常任幹事), 各種委員(編集委員長の交代を含む)の推薦がなされ, 承認された。

2) 次期会計監事について

次期の会計幹事について幹事会の推薦者2名(長谷川博氏, 乙部千雅子氏)の推薦がなされ, 承認された。

3) 英文誌編集委員の選出について

英文誌の編集委員(江面浩氏)の追加が提案され, 承認された。

4) 平成24年度学会賞等選考委員(6名)の選出

平成24年度学会賞等選考委員(6名)に関する投票が行われ, 6名が同委員に決定した。なお, 委員長は内規に従い副会長が務める。

平成24年度学会賞等選考委員: 三上哲夫氏, 西尾剛氏, 江面浩氏, 矢野昌裕氏, 奥本裕氏, 北野英己氏(次点: 石本政男氏, 岩永勝氏, 松岡信氏, 山岸博氏)

5) 平成24-25年度シンポジウム委員(5名)の選出

倉田会長から, シンポジウム委員(任期2年)の選出について, 昨年春にシンポジウム・ワークショップの新しい形を提案したが, 東日本大震災で実現できずに現時点での委員の交代時期を迎えているが, シンポジウム委員を継続(2年任期)して行って欲しいとの提案があり, 全会一致で承認された。

6) 第9回(平成23年度)論文賞の選考

奥野学会賞等選考委員長から3題の論文が推薦され, 新旧幹事の投票により可決, 承認された。

論文名: Detection of a QTL for accumulating Cd in rice that enables efficient Cd phytoextraction from soil.

著者名: Tadashi Abe, Fumio Taguchi-Shiobara, Yoichiro Kojima, Takeshi Ebitani, Masato Kuramata, Toshio Yamamoto, Masahiro Yano and Satoru Ishikawa

掲載号・頁: Breeding Science 61(1) 43-51

論文名: Genetic relationships of soybean cyst nematode resistance originated in Gedenshirazu and PI84751 on *Rhg1* and *Rhg4* loci.

著者名: Chika Suzuki, Yoshinori Tanaka, Toru Takeuchi, Setsuzo Yumoto and Shigehisa Shirai

掲載号・頁: Breeding Science 61(5) 602-607

論文名: QTL analysis of photoperiod sensitivity in common buckwheat by using markers for expressed sequence tags and photoperiod-sensitivity candidate genes.

著者名: Takashi Hara, Hiroyoshi Iwata, Kazutoshi Okuno, Katsuhiko Matsui and Ryo Ohsawa

掲載号・頁: Breeding Science 61(4) 394-404

7) 平成23年度決算報告, 監査結果

平成23年度決算について, 原案通り承認された。

8) 平成24年度予算案の検討

平成24年度の予算案が提案され, 原案通りに承認された。

9) Breeding Science 掲載料の値上げについて

投稿論文の受付前, 受理後の英文校閲は編集委員会に対応してきたが, 過剰業務であることから, この作業を業者委託にし, 新たに発生する経費を投稿料の5000円値上げによってまかなうことが提案され, 賛成多数で可決された。

10) シンポジウムの運営方針について

次期大会からシンポジウム・ワークショップの運営方針を変更する提案がなされた。幹事からは, グループ研究集会の小回りの良さは内容を直前まで決めなくていい

というところにあるという認識から、枠組みは責任を持って取るが、内容を直前まで決めなくていいという仕組みを検討してもらいたいこと、自主的な勉強会を妨げることにならないかなどの意見が出された。シンポジウム委員会としては開催校の負担を軽減する、参加者を増やすという趣旨での改正案なので、幹事会での意見を汲み上げながら委員会提案の方法で実施することとし、了承された。

11) 平成 25 年春季大会開催地について

2013 年春季大会は 3 月 26 日～28 日の日程で東京農業大学において近藤勝彦氏を大会委員長として行うことが提案され、了承された。

3. その他

1) 第 121 回講演会 日本育種学会優秀発表賞の投票方法について

幹事に日本育種学会優秀発表賞の投票用紙を配布後、投票方法の説明があった。

◇ 総会議事録

開催地：平成 24 年 3 月 29 日（13：30～14：15）

開催場所：宇都宮大学農学部 3101 教室

1. 各常任幹事報告 庶務（総務、農学会・科研費、LMO、ホームページ）、集会、英文誌、和文誌

2. 第 9 回（平成 23 年度）日本育種学会論文賞の発表

3. 議事

1) 平成 23 年度決算報告・会計監査報告

2) 平成 24 年度予算案の承認

3) 会計監事の選出・承認

議事はいずれも異議なく承認された

4. その他

1) 次期執行部（常任幹事）の紹介

2) 次期開催校（京都産業大学）の紹介

3) その他

◇ 平成 23 年度決算及び平成 24 年度予算

（単位：円）

収入の部	平成 23 年度決算	平成 24 年度予算
前年度繰越金	8,169,062	10,225,288
会員会費	17,636,500	17,570,000
賛助会員会費	840,000	820,000
掲載料	710,000	800,000
雑誌著者負担分	5,073,500	3,300,000
別冊代等	3,044,000	3,750,000
広告料	780,800	800,000
寄付金	1,209,438	0
雑収入	177,036	150,000
出版助成金	2,140,000	0
合計	39,780,336	37,415,288

支出の部	平成 23 年度決算	平成 24 年度予算
I. 事業費		
1. 雑誌刊行費	12,225,709	12,310,000
2. 別冊刊行費	3,000,936	3,060,000
3. 大会費	1,200,000	1,200,000
4. シンポジウム費	0	600,000
5. 学会賞費	424,650	450,000
6. オンライン版作成費	658,453	700,000
7. 名簿作成費	435,120	0
II. 運営費		
1. 学会分担金	219,008	230,000
2. 事務担当者手当	400,000	400,000
3. 事務費		
1) 庶務	748,997	800,000
2) 編集		
英文誌	824,568	850,000
和文誌	4,915	100,000
3) 集会	74,525	200,000
4) 会計	138,555	150,000
4. 事務委託費	4,401,600	4,401,600
5. 通信費・送料	551,636	600,000
6. 付属印刷物	210,634	200,000
7. 男女共同参画活動費	49,652	140,000
8. 地域活動費	399,324	400,000
9. 雑支出	187,476	160,000
III. 予備費	194,014	10,463,688
IV. 次年度へ繰入	10,225,288	0
V. 基金へ繰入	3,205,276	0
合計	39,780,336	37,415,288
基金	平成 23 年度からの繰越	平成 24 年度予定
運営基金	20,000,000	20,000,000
学会賞基金	3,250,000	3,250,000
事典委員会	50,448	50,448

◇ 学会賞授与・受賞講演

開催日：平成 24 年 3 月 29 日（14：15～17：00）

開催場所：宇都宮大学農学部 3101 教室

平成 23 年度 日本育種学会賞

・吉村淳氏（九州大学大学院農学研究科）：イネ実験系統群の作出とゲノミクス研究における利用

・八幡平市花き研究開発センター・安代リンドウ開発合同育種チーム（代表者：日影孝志氏）：高品質「安代りんどう」ブランド品種群の育成と海外展開

平成 23 年度 日本育種学会奨励賞

・諏訪部圭太氏（三重大学大学院生物資源学研究科）：アブラナ科植物における分子遺伝学研査の構築と育種学的研究

・山崎将紀氏（神戸大学大学院農学研究科）：穀物における選抜遺伝子および農業形質関連遺伝子の解析手法の開発

◇ 第 121 回講演会日本育種学会優秀発表賞

2012 年日本育種学会春季大会（第 121 回講演会）にお

ける日本育種学会優秀発表賞が下記の13課題に決定された。

講演番号 103: 重要形質の遺伝子座を迅速に同定できる MutMap 法のイネゲノム育種への適用 ○阿部陽¹・吉田健太郎²・高木宏樹²・小杉俊一²・夏目俊²・M. Tamiru²・落合祐介²・佐々木力¹・寺内良平² (1. 岩手県農業研究センター, 2. 財団法人岩手生物工学研究センター)

講演番号 P115: 次世代シーケンサーを用いたイネ属での雑種強勢機構の解析 ○太田垣駿吾¹・大柳一^{1,2}・豊田敦¹・藤山秋佐夫¹・倉田のり¹ (1. 国立遺伝学研究所, 2. 三菱スペース・ソフトウェア)

講演番号 P022: 携帯端末を活用した圃場でのイネ形質評価の効率化 ○七夕高也・柴谷多恵子・堀清純・江花薫子・矢野昌裕 (生物研)

講演番号 104: イネ品種間交雑後代における QTL-seq 法を用いた迅速な遺伝子座同定 ○高木宏樹^{1,2}・阿部陽^{1,3}・吉田健太郎²・夏目俊²・寺内良平² (1. 岩手大学大学院連合農学研究科, 2. 岩手生物工学研究センター, 3. 岩手県農業研究センター)

講演番号 P090: 胚-胚乳比率を制御する RE 遺伝子の解析 ○桧原健一郎¹・永澤信洋^{2,3}・H. Sakai²・長戸康郎¹ (1. 東大院農学生命科学, 2. デュボン, 3. 現; 秋田県立大生物資源科学部)

講演番号 615: イネ stay-green 遺伝子 *NYC4* の単離と機能解析 ○山谷浩史¹・佐藤豊²・増田優¹・森田竜平³・西村実⁴・草場信^{1,5} (1. 広島大理学研究科, 2. 生物研, 3. 理研仁科センター, 4. 生物研放育場, 5. CREST)

講演番号 714: 膜透過ペプチドを利用した植物へのイネフロリゲン Hd3a タンパク質直接導入 ○鷲田治彦¹・辻寛之¹・田岡健一郎¹・児嶋長次郎²・島本功¹ (1. 奈良先端大・植物分子遺伝, 2. 阪大・蛋白研)

講演番号 206: マイクロアレイ技術を用いたサトウキビ黒穂病抵抗性関連形質の QTL 解析 ○榎宏征¹・西村哲¹・木村達郎¹・島田武彦¹・都築祥子¹・服部太一郎²・石川葉子²・境垣内岳雄²・寺内方克² (1. トヨタ自動車(株)FP部 バイオラボ, 2. (独)九州沖縄農業研究センター バイオマス資源作物開発チーム)

講演番号 416: 根の通気組織形成能が低下したイネ *rcn1* 変異体におけるエチレン生合成 ○山内卓樹¹・塩野克宏²・高牟禮逸朗³・森仁志¹・堤伸浩⁴・加藤清明⁵・中園幹生¹ (1. 名大院生命農学, 2. 福井県立大, 3. 北大農院, 4. 東大農学生命科学, 5. 帯広畜産大)

講演番号 704: 内在性レトロトランスポゾン *LORE1* によるマメ科モデル植物ミヤコグサの大規模遺伝子タギング系の開発 ○深井英吾¹・征矢野敬¹・梅原洋佐¹・中山しのぶ²・平川英樹²・田畑哲之²・佐藤修正²・林誠¹ (1. 生物研, 2. かずさ DNA 研)

講演番号 710: タバコをモデルとした barnase-barstar システムによる葉緑体形質転換体のホモプラズミック化促進戦略 ○奥崎文子・津田麻衣・七里吉彦・田部井豊 (農

業生物資源研究所)

講演番号 116: 大豆のカドミウム吸収性を制御する遺伝子のファインマッピング ○平田香里・山田哲也・山田直弘・羽鹿牧太 (農研機構 作物研究所)

講演番号 712: RNA silencing inducible sequence の作用機作の解析 ○川勝泰二¹・若佐雄也¹・保田浩^{1,2}・高岩文雄¹ (1. 生物研, 2. 現 北農研)

◇ 記者発表報告: 日本育種学会第 121 回講演会 選定課題記者会見報告

発表日時: 平成 24 年 3 月 21 日 11:15 ~ 12:00

会場場所: 東京大学弥生講堂アネックス・エンゼル研究棟講義室

出席者: 幹事長 草場信, 庶務幹事 伊藤純一

参加報道機関: 読売新聞, 科学新聞, 日本農業新聞, 日経 BP の 4 社

平成 24 年 3 月 29 日 (木曜), 30 日 (金曜) に宇都宮大学 (栃木県宇都宮市) で行われた日本育種学会第 121 回講演会の講演課題 (計 281 課題) の中から選定された 2 課題について記者会見を実施した。

【記者会見課題】

- (1) 講演番号: 103 「重要形質の遺伝子座を迅速に同定できる MutMap 法のイネゲノム育種への適用」阿部陽¹・吉田健太郎²・高木宏樹²・小杉俊一²・夏目俊²・Mulunch Tamiru²・落合祐介²・佐々木力¹・寺内良平² (1. 岩手県農業研究センター, 2. 岩手生物工学研究センター)
- (2) 講演番号: P022 「携帯端末を活用した圃場でのイネ形質評価の効率化」七夕高也・柴谷多恵子・堀清純・江花薫子・矢野昌裕 (農業生物資源研究所)

それぞれの課題について発表者に説明用レジュメを作成して頂き, それに基づいて草場と伊藤が説明し, 質疑応答を行った。記者会見後, 講演番号 103 の課題が日本農業新聞 (3/22), 日経バイオテク (3/21), 講演番号 P022 の課題が日本農業新聞 (3/30), 日経バイオテク (3/22), 科学新聞 (3/30) に掲載された。

◇ 地域談話会だより

〈近畿地区〉

【近畿作物・育種研究会 第 4 回現地検討会】

2011 年 10 月 22 日 (土) に第 4 回現地検討会を「中丹地域における農耕地およびその周辺の植生と丹波黒生産」をテーマで行いました。亀岡市郊外の伝統的方法で管理された堤防, 京都大学附属牧場の牧草地, および京丹波町富田の丹波黒圃場において, 丹波地方中部の特徴ある農業生態系を実地検分いたしました。参加人数は 15 名でした。

【近畿作物・育種研究会 第 171 回例会】

神戸大学農学部において近畿作物・育種研究会第 40 回公開シンポジウム「明日のための農学研究」を開催しま

した。下記の5つの話題提供に引き続き、総合討論が行われました。会場から多くの質問、提案が出され、農学研究の新しい解析方法・技術に丹念で正確な表現型調査が重要であることを再認識する大変有意義なシンポジウムとなりました。参加者は58名でした。

プログラム：① FieldBook：主にバーコードを利用した表現形質のデータシステムの開発と植物遺伝育種への統合。山崎将紀（神戸大学）・Arturo GARCIA（USDA-ARS）②病原菌のアキレス腱をターゲットとした病害防除戦略。池田健一（神戸大学）③自家不和合性遺伝子に着目したF₁大和マナ品種の育成。浅尾浩史（奈良県農業総合センター）④イネのソース能の遺伝解析に向けた評価方法の創意・工夫。高井俊之（農研機構・作物研）⑤「ゲノム育種」再び。次世代シークエンサーは新しい育種の扉を開くのか？。岩田洋佳（東京大学）⑥総合討論

〈四国地区〉

四国談話会

2011年11月24、25日に育種学会四国談話会講演会（第76回）およびシンポジウム（作物学会四国支部と共催）を高知県農業技術センターにおいて開催した。それぞれの参加人数は13名、77名であり、プログラムは下記の通りである。

◎日本育種学会第76回四国談話会講演会（2011年11月24日（金）9：00～12:00）

1. Effect of a gene for lateness on dry matter production at heading and maturity in *indica* rice.

○Amol Dahal¹, Stanis Malangen², Takeshi Akaoka¹, Yasuo Takemura¹, Nobuyuki Kira¹, Masayuki Murai¹ (1. Faculty of Agriculture, Kochi University, 2. United Graduate School of Agriculture Sciences, Ehime University)

2. *Uri* 遺伝子を有する品種候補における著しい多収の事例

○村井正之¹・Stanis Malangen²・赤岡武¹・Trung Anh Trieu¹・竹村泰雄¹・吉良展行¹ (1. 高知大学農学部, 2. 愛媛大学大学院連合農学研究科)

3. 高知県に分布するサツマイモネコブセンチュウに対するトウガラシ属抵抗性素材の評価

○細美祐子¹・鍋島怡和¹・戸梶賀仁¹・伊藤政雄¹・岡田昌久¹・澤田博正² (1. 高知農技セ, 2. 高知農大校)

4. 戻し交配によるとげなし高知ナス品種育成の検討

○岡田昌久¹・山田美保江¹・新田益男²・松本満夫³ (1. 高知農技セ, 2. 安芸農振セ, 3. 牧野植物園)

5. ペラルゴニウムとゼラニウムにおける花色変異の拡大

○柿原文香・本藤加奈（愛媛大農）

6. *Pelargonium* 属植物における黄色花品種作出の試み

○柿原文香・Sukhumpinij Pornpan・本藤加奈（愛媛大農）

7. オキナワチドリ優良系統の保存と増殖の課題

○大橋広明（愛媛大学農学部）

◎シンポジウム（2011年11月24日（木）13:00～15:50）

テーマ：「温暖化に立ち向かう——高知県における主要園芸品目への温暖化の影響とその対策事例——」

○水稻の高温登熟発生予測モデルと早期警戒システムの構築：脇山恭行（九州沖縄農研センター温暖化チーム）

○高知県における園芸野菜への温暖化の影響とその対策：高橋昭彦（高知県農業振興部産地流通支援課専門技術員）

○高知県における果樹園芸への温暖化の影響とその対策：西本年伸（高知県農業技術センター果樹試験場チーフ（落葉果樹担当））

○高知県における花きへの温暖化の影響と今後の方向性：片岡明彦氏（高知県農業振興部産地流通支援課専門技術員）

〈九州・沖縄地区〉

本年度九州地区では、2011年11月24日に南九州大学都城キャンパスにおいて第六回九州育種談話会を開催した。また、参加人数は71名で、講演は36題（招待講演5題およびポスター31題）であった。

◇ 集会の案内

〈植物品種保護戦略フォーラム設立10周年記念講演会及び交流会のお知らせ〉

植物品種保護戦略フォーラムでは講演会、交流会を以下の通り開催します。

植物品種保護戦略フォーラム設立10周年記念講演会「わが国種苗産業の将来ビジョン」（第30回）及び交流会開催のご案内

1. 日時：6月15日（金）13:45-17:00

2. 会場：三会堂ビル9階「石垣記念ホール」（植物品種保護戦略フォーラム事務局・JATAFF本部の入っているビル）東京都港区赤坂1-9-13?（地下鉄南北線・銀座線「溜池山王」駅下車，9番出口より徒歩5分）

講演会の日時やプログラム，参加申し込み方法等，詳しくは学会ホームページ（<http://www.nacos.com/jsb/>）をご覧ください。

◇ 研究助成等の公募案内

〈OECD 国際共同プログラム事業への募集についてのご案内〉

OECD 国際共同研究プログラム事業への募集について～世界へ羽ばたく日本の農林水産研究者を支援します～

本プログラムでは、研究者が OECD 諸国へ短期在外研究を行う際の 6ヶ月までの旅費や滞在費の支援（フェローシップ）、国際ワークショップ開催の際に、招へいする講演者の交通費や宿泊費の支援（国際ワークショップ）などといった取組を行っております。

[フェローシップ]

1. 応募資格：博士号取得者で研究機関等に常勤する者
2. 派遣期間：6週間～6ヶ月（2013年3月1日から12月15日までに出発すること）
3. 支給経費：往復旅費、滞在費。なお研究費は支給されない。
4. 派遣先：本プログラム参加国（23ヶ国）にある任意の研究機関
5. 応募締切：2012年9月10日

[国際ワークショップ]

1. 支給対象：単独の国際ワークショップや国際学会の一部のセッション（2013年に開催）
2. 支給経費：招へいする講演者の交通費、宿泊費など
3. 応募締切：2012年9月10日

本事業の詳細はホームページ（以下）をご確認ください
http://www.s.affrc.go.jp/docs/oecd_program.htm

〈三島海雲学術賞候補者の推薦依頼について〉

公益財団法人三島海雲記念財団より第2回（平成25年度）三島海雲学術賞候補者の推薦依頼が育種学会会長宛に来ております（推薦者：学会長、推薦期間：平成24年8月1日～31日）。

対象者は「自然科学及び人文社会科学の学術研究領域において、とりわけ、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者（45歳未満）」で、受賞者には表彰および副賞200万円が贈られます（<http://www.mishima-kaiun.or.jp/works.html#award>）。該当者がいる場合は、候補者名とその研究テーマ、研究業績を添えて庶務幹事（総務）の福岡までご連絡ください。必要な方には様式（pdf）をお送りいたします。

〈平成24年度CG人材育成派遣事業派遣者公募のお知らせ〉

世界の農業研究に羽ばたこう！！国際農業研究機関（CGIARなど）で国際農業研究に挑戦したい修士課程在学以上の学生・若手研究者を派遣

国際農林水産業研究センター（JIRCAS）は、国際共同研究人材育成推進・支援事業（農林水産省委託事業）において、国際農業研究機関等で国際共同研究の経験を積みたい修士・博士課程の学生・研究者を6月8日まで募集しています。

本事業は、研修課題リストから課題を選択して応募す

る「短期派遣（2カ月間程度）」と、派遣先と研究課題を自分で考えて応募する「中・長期派遣（6～16カ月間程度）」の2つの募集枠があります。世界中の国際農業研究者が集まる場で、自分の研究スキルを磨いてみませんか！！詳細については下記ホームページをご覧ください。http://www.jircas.affrc.go.jp/renkei/jinzai_index.html

また、説明会開催予定や個別詳細に知りたい方は、下記担当まで、お気軽にお問い合わせください。

（問い合わせ先）独立行政法人国際農林水産業研究センター（JIRCAS）企画調整部企画管理室 研究交流科
 e-mail: irs-jircas@ml.affrc.go.jp

Phone: 029-838-6336

日本育種学会会員異動(2012.1.21～2012.4.20)

◇ 普通会員入会：津田直人（秋田）、太田垣駿吾（静岡）、宮原克典（福岡）

◇ 学生会員入会：上代隼也（北海道）、熊谷さおり、椿信一（秋田）、鶴巻啓一（山形）、NASHIR UDDIN MD、雨谷弓弥子（茨城）、二階堂睦、渡部真哉（東京）、岩佐裕章、唐戸俊介、小林有里奈（神奈川）、音川俊太郎、西原莉央（長野）、齊藤聖（京都）、小田雅之（奈良）、ABDELRAHMAN MOSTAFA、岩田智志（山口）、内藤琢仁（宮崎）

◇ 団体会員入会：（株）久留米原種育成会（福岡）

住所変更等

◇ 普通会員：芦田かなえ、黄川田智洋、北村雄、木村鉄也、長野宏則（北海道）、須藤充（青森）、阿部陽、本田裕（岩手）、津田直人（秋田）、宮澤豊（山形）、秋田祐介、井辺時雄、勝田真澄、佐々木卓治、白松齡（茨城）、飯村一成、吉成強（栃木）、三吉一光、室田有里（千葉）、木富悠花、柴田道夫、望月龍也（東京）、岩本嗣、平野久（神奈川）、川上修、斎藤浩二、松下景（新潟）、高橋浩司、山田直弘（長野）、岩崎勇次郎（静岡）、上山泰史（島根）、久野裕（岡山）、藤田由美子、船附稚子（広島）、金子和彦（山口）、安東郁男（福岡）、大林憲吾（長崎）、岡本正弘（熊本）

◇ 逝去

中山博貴氏（宮崎）

慎んでご冥福をお祈りいたします。